

平成 30 年度 第 1 回豊後高田市総合教育会議議事録

日 時 平成 31 年 2 月 25 日 (月) 13 : 00 開会
場 所 豊後高田市役所高田庁舎 3 階
防災対策室
出席者 市 長 佐々木 敏夫
教育委員会
教育長 河野 潔
委 員 高井 郁郎
委 員 大嶽 由美子
委 員 宮崎 みゆき
委 員 松成 康男
事務局
市総務課長 佐藤 之則
教育総務課長 安藤 隆治
学校教育課長 小川 匡
教育総務課課長補佐兼総務管財係長
馬場 政年
市総務課課長補佐兼総務法規係長
小野 政文

=====

1. 開会

○市総務課長 佐藤 之則

みなさん、こんにちは。市総務課長の佐藤です。
ただ今の出席者は、佐々木市長、河野教育長、高井教育委員さん、大嶽教育委員さん、宮崎教育委員さんです。松成教育委員さんにつきましては、少し遅れる旨の連絡がありました。会議の途中で入っていただけるものと思います。

ただ今から、平成 30 年度第 1 回豊後高田市総合教育会議を開催いたします。

開会にあたりまして、皆さんにご了承いただくことがございます。

本会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」で、原則公開するとなっております。ただ今、大分合同新聞の佐藤支局長、市のケーブルテレビ、市報担当が入っております。法の趣旨にそって、原則公開で開催させていただき、会議内容につきましても、原則公開させていただきますので、ご了承願います。

はじめに、佐々木市長よりごあいさつ申し上げます。

2. 市長あいさつ

○市長 佐々木 敏夫

本日は、年度末を控え、たいへんお忙しい中、平成 30 年度の総合教育会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

教育委員の皆様方には、日頃より、豊後高田市の教育のまちづくりに関し、ご理解とご協力をいただいていることに、衷心より感謝を申し上げる次第であります。

さて、この総合教育会議は、市の教育方針や、重要な教育課題等に対し、私と教育委員会とで、協議・調整を行う場でございます。今後の教育行政について、しっかりと議論していきたいと思っております。

先日、広瀬知事と懇談する機会がございました。その席で知事は、「大分県の教育を九州でトップに、3 年以内にトップに引き上げたいという目標を掲げ、それが実現した」とおっしゃっておりました。

ご案内のように、豊後高田市の子ども達は、毎年、県下のトップレベルを維持しております。

また、大分県が「子育て満足度日本一」を目指す中、「豊後高田市のリーダーシップで、大分県の子育て支援を引っ張ってもらいたい」という、ありがたいお褒めの言葉をいただきました。これは、本市の取組に対する評価と、今後に向けた激励の言葉であると私は思っております。また、責任も痛感しているところでございます。

住みたい田舎ランキングの、10 万人未満の都市での総合第 1 位「返り咲き」と、7 年連続ベスト 3 にランク入りは、全国初であります。また、人口動態では、5 年連続の社会増を達成しています。大分県では社会増は 3 自治体しかありません。豊後高田市 46 人、由布市が 29 人、中津市が 9 人となっております。これらは、本市が誇る「教育のまちづくり」と「子育て支援施策」が高く評価されての結果でございます。

今後とも、皆様からのお力添えをいただきながら、

本市の未来を担う子ども達の教育に、取り組んでまいりたいと思っております。皆さんの積極的な議論をお願いしたいと思っておりますので、何とぞ、よろしくお願ひ申し上げます。

○市総務課長 佐藤 之則

それでは、早速ですが、協議・調整事項に移ります。

会議は、豊後高田市総合教育会議運営要綱第2条第3項に基づき、市長が議長として議事進行を行うこととなっています。

佐々木市長、よろしくお願ひします。

3. 協議・調整事項

(1) 児童・生徒の学力、体力について

○市長 佐々木 敏夫

それでは、議長を仰せつかりましたので、会議を進めてまいります。

協議、調整事項です。まず、児童・生徒の学力、体力について、事務局から説明をお願いします。

○学校教育課長 小川 匡

学校教育課長の小川です。どうぞ、よろしくお願ひします。

資料の2ページをご覧ください。

まず、全国学力・学習状況調査、大分県学力定着状況調査結果からご説明いたします。

全国学力・学習状況調査につきましては、小学校6年生と中学校3年生が対象であります。この調査は、全国の子どもたちの学力や学習状況を把握・分析し、これまでの教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、教育に関する継続的な検証サイクルを確立するためのものです。また学校における子ども達への指導の充実や改善に役立てる基礎データとなるものです。

今年度は、平成30年4月17日に実施されました。まず、小学校の状況ですが、質問紙において、学習状況の結果でございます。○印が全国より高くなっているものです。「自分にはよいところがあると思う。」「先生は、よいところを認めてくれている。」「将来の夢や目標を持っている」等が、全国値よりも本市の方が高い状況となっております。

しかしながら、(△印の)「朝食を毎日食べている。」「一日あたりの読書時間30分以上。」というところが、若干ではあります。全国平均値を下回って

るという状況であります。

それでは、学習の状況についてです。3ページをご覧ください。

まずは、国語の状況です。国語A・国語Bと別れておりますが、国語Aについては、基礎的な問題であります。国語Bについては、活用力を問うものがあります。

資料に、全国、大分県、豊後高田市の正答率が書かれておりますが、いずれも、全国、大分県の正答率を上回っております。出題ですが、資料にある問題のようなものに若干課題があると言うことで、こちら辺について、授業を中心に指導を行っていくところです。

次に、4ページの算数です。

こちらについても、算数A・算数Bともに、大分県、全国を上回っております。

A1で、大分県の正答率を下回った設問ということで、これは、すべての子ども達に関係があると言うことで、このような設問にどのように解いていくか、どのように指導していくかということで、教育委員会として各学校に示して、取り組める状況を作っております。

次の5ページです。

3年に一度、理科の科目を行います。こちらについても、全国、大分県を上回っております。**類型III**正答率の最も低い設問ということで、理由を問う問題で、なかなか表現、文書による表現が難しいと言うことで、このような問題をいかに解いて自分の考えを文章にしていくかということが課題となっておりますので、こちらについても、授業を中心に課題解決に向けて取り組んでいるところです。

次に、6ページ、中学校の状況です。

小学校と同じように、「将来の夢や目標をもっている。」「家の人と学校での出来事について話す。」「家で計画を立てて勉強している。」については、全国平均値を上回っております。

しかしながら、「一日あたりの学習時間1時間以上。」「一日あたりの読書時間30分以上。」というのが、全国平均値を下回っている状況でありますので、こういう取組みができるように家庭学習を中心に各学校で、子ども達に推進をしているところです。

次に、7ページでございます。

国語A・国語Bともに、大分県、全国平均値を上回っております。全国平均を下回った正答率の類似の設問について、指導しております。

次に数学の状況です。8ページをご覧ください。

算数Aについては、全国、大分県と同等のレベルでございますが、算数Bの活用力を問う問題については、平均を下回っている状況です。なかなか、図形など説明をすると言うところの問題については、なかなか答えまで引き出すことができない傾向でありますので、多くの問題を解くことによって、慣れると言う状況を授業や家庭学習等で作ってあげておくことを考えております。

次に理科です。9ページです。理科については、全国平均を上回っている状況です。

それでは次に、大分県学力定着状況調査についてです。11ページをご覧ください。

これは、大分県独自の学力調査によるものですが、2点について、目的を定めています。まず1点目は、「大分県内の小・中学校児童の学力や学習・生活状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、教育に関する継続的な検証サイクルを確立する。」2点目は「学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。」ということでありまして。本年度は、平成30年4月24日火曜日に実施をしております。対象については、小学校5年生と中学校2年生です。

12ページをご覧ください。

小学校の国語の様子ですが、内容についてです。2番目「漢字を読む」、5番目「物語の内容を読み取る」というところで、偏差値50を下回っているという状況です。領域についても、平均が50ですので、若干下回っている。あとについては、おおむね良好であるということが伺えます。

13ページの算数です。

資料右上の領域の表をみていただくと、いずれも◎であります。内容について、6番の「角の大きさ」を求めるところが、平均50を下回っているということになります。あとについては、おおむね良好であるという状況です。

資料の下の方には、「まだまだ伸ばしていきたいところ」ということで、出された問題についてピックアップしています。こういうところがあれば、

まだまだ伸びしろがありますということで、各学校でしっかりと取り組める状況を作っております。

次に理科です。14ページをご覧ください。

理科につきましては、ご覧のように、◎が全てです。

次は中学校です。16ページをご覧ください。

国語についてですが、いずれも○、◎ということで、良好な結果が出ております。

次は社会です。17ページです。

内容の2番目「世界の気候と人々の生活と環境」で平均を下回っている状況です。資料から読み取る力、または比べるところに課題が見られるという結果になっております。

次が数学です。18ページです。

数学については、評価については良好であります。内容の「平面図形」のところ課題が見られません。

次は理科です。19ページになります。

こちらについても、評価についてはいずれも良好ということで、教科書だけではなくて、実験・観察を通して分析をし、細かい調査についても的確に学習ができているという評価でよいのではないかと思っております。

次に英語です。20ページです。

評価については、いずれも良好ですが、内容の4番「語彙の知識・理解」が×になっております。×は平均を1ポイント以上下回っているということです。これについては、強化部会等を開いて、英語授業の在り方について会議をし、授業を改善していくということで確認しているところです。

4月の調査を受けまして、8月に結果が出てきました。それを分析し、各学校で取り組みをしております。

平成30年12月には、市独自の学力調査を行いました。その結果が1月中旬にでましたので、残りあと2カ月余りで、その学年が習得しなければならない内容がありますので、各学校で分析し、一人ひとりに応じた学習を行っているところです。

来年の全国学力学習状況調査では、英語科が導入されます。「聴く」「読む」「書く」「話す」の4技能になるということで、その準備を行っているところです。

以上が学力についてです。

次に、全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果についてです。いわゆる体力調査についてです。

資料の23ページ、24ページをご覧ください。資料の見方としましては、「T得点」というものがあります。全国平均値50、偏差値50ということでもあります。例えば、握力を見ますと、全国50.0、大分県52.1、豊後高田市53.6ということで、全国平均値を上回っているという調査結果になっております。

これを見やすくしたものが24ページになります。赤いラインが全国平均値50ということになります。緑の棒グラフが大分県の結果です。豊後高田市が水色の調査結果になります。

小学5年生(男子)の結果を見ますと、いずれも全国、大分県を上回っていることがわかります。女子については、全国平均値は上回っているのですが、上体起こしが、県の平均値を下回っている状況であります。いずれも、全国平均値は上回っているという状況です。

次に、25ページ、26ページになります。同じような見方をすればよいです。

26ページを見ますと、わかりやすくなっています。中学2年生(男子)が対象の結果となっておりますが、50m走が全国平均値を下回っている状況です。あと、反復横とびも下回っています。

=== 松成委員が到着 ===

中学校2年生女子については、上体起こしと反復横とびが全国平均を下回っております。柔軟性と俊敏性ということに課題が見られるということで、体育の授業、また部活動、登下校のなかで習慣化を付けるということを含めて、日々の生活の中でしっかりと体力アップにつながる取組をしていくということで、各学校で取組をしています。

22ページに戻っていただいて、「3 今後の取組」ということで、毎年、各学校で子ども達の様子から、体力向上プランを作成し、体育の授業、休み時間、休日の過ごし方等について、考察いたしております。ただ今、体力向上プランの見直しを行い、成果と課題を明確にし、その解決に向けた取組を行っているところです。1校1実践を行っておりますので、その成果があったのかなかったのかを含めて、検証・

改善を行っているところです。

また、体力向上には、当然、食育・健康教育の更なる充実が必要ではないということで、これから十分取り組んで行こうということで、教育委員会といたしましても、各学校に指導しているところです。

以上です。

○市長 佐々木 敏夫

はい。説明をいただきましたが、この内容について、質疑・意見等がありましたらお願いします。

大嶽委員さん、いかがでしょうか。

○委員 大嶽 由美子

はい。今、課長の説明がありましたように、学力についても、体力についても、ほほいい傾向にあって、安心しているところです。特に、学力の方は安定してトップクラスを維持しているということは、これまでの取組が正しかったのではないかなと思っています。

体力については、報道でもあったように大分県全体がいい結果を出したということで、その方向で進めていっていいのではないかと思います。

○市長 佐々木 敏夫

ありがとうございます。

宮崎委員さんどうですか。

○委員 宮崎 みゆき

はい。とてもいい結果が出ているので安心しているのですが、これは、環境というものが昔と比べて、良い環境になっているからだと思います。

体力についてもですね、結構、保護者の皆さんが運動面に熱心な方が多くて、将来が楽しみだなと思っています。

○市長 佐々木 敏夫

ありがとうございます。

高井委員さんどうですか。

○委員 高井 郁郎

はい。いろいろ数字が出ている中で、1日の学習時間が1時間以上というのと、読書時間の30分以上が全国を下回っているにもかかわらず、学習状況調査の結果でほとんどのところで全国を上回っているというのは、現場の教師の工夫とか努力によるものだと思いますし、また、この2つをもうちょっと上げれば、もっともっと伸びしろがあるのではないかと思いますので、期待を持っております。

○市長 佐々木 敏夫

ありがとうございます。

教育長、何かありますか。

○教育長 河野 潔

高井委員さんの学習時間の件ですが、これは一概に家庭学習だけを切り取っての話はできませんで、豊後高田市の場合は圧倒的に学習塾に通う児童・生徒が少ないわけです。

ですから、おそらく全国調査の中では、また大分県内の都会部の調査の中で全国と同じくらいの学習塾にいく割合が、中学校で 56%ぐらいあるんですけども、豊後高田市の場合は中学生で 16%ぐらいの数字になっております。

ですから、全国調査の中では、家庭での学習時間の中には、学習塾での時間も入っているのではないかと思っていますところ。

また、学びの 21 世紀塾は学校の中の学習活動の一環でやっていますので、それは学校での学習時間に入れて考えたほうが良いのではないかと思います。

まあ、しかし、やるに越したことはありませんので、家庭学習はしっかりさせていくべきだと考えております。

○市長 佐々木 敏夫

はい。松成委員さん、遅れて来られてわるいのですが、説明も全部聞かれてないと思いますが、何かありましたらお願いします。

○委員 松成 康男

まずは、遅れて申し訳ありませんでした。

学力のところは、皆さんのお話を聞きまして先生方にお世話になっているなと思いました。

体力のところでは、私は教育委員として日が浅いので、主観的な観点になるのですが、職業柄県内のいろんな先生方と一緒にすることが多いのですが、豊後高田市の運動部の活躍については、非常に、野球に関してはそうですし、すごいなということを耳にします。

昔、僕らの時と比べて、移動の時に学校に通うのに自転車を使う機会が少なくなって、また歩くのも少なくなってどうなのかなと思うんですが、そのようなところの影響を受けてなくて、体力がついているところをみて、感心しているところです。

○市長 佐々木 敏夫

ありがとうございます。

私も聞いていて、問題点あるものの拾い上げていただいているので、それに向けて取り組んで行くと言う視点はありがたい。ぜひ続けていただきたいと思っています。

(2) 学校施設長寿命化について

○市長 佐々木 敏夫

それでは、次の議題に入ります。学校施設長寿命化について、事務局から説明をお願いします。

○教育総務課長 安藤 隆治

教育総務課長の安藤です。私の方からは、学校施設長寿命化について説明いたします。

資料は、協議・調整事項 (2) になります。

皆さんご案内のとおり、本市の学校施設につきましては、経年等によりまして老朽化した施設も多く、今後どうこの対策に取り組んでいくかということが、大きな課題となっています。

そこで、市の方では、平成 29 年度に長寿命化計画という計画を策定したところであります。

この計画については、国の方から、平成 32 年度までに策定が義務付けられました、いわゆる個別計画ということになりますが、今後の施設維持保全の方向性を検討し、屋根や外壁といった部位別、学校別の優先順位を考えた上で、整備の内容、時期、費用等について具体的に定めております。

平成 31 年度からは、いよいよ、この計画に基づいて、国の助成等を活用しながら、設計・改修に着手していくということになります。

本日は、市内学校施設の老朽化の現状と今後の改修の方向性について、簡単に説明させていただきます。

資料を開いて、1 ページをご覧ください。

計画策定に際しましては、ご覧のような 4 段階の評価基準に基づきまして、屋根、外壁などの健全度、いわゆる老朽判定をしたところです。

つまり、表の下の方に行くほど、劣化が進んでいるということになりますが、中でも、オレンジ色の部分の「D判定」につきましては、早急な対策を講じなければならないということになります。

2 ページをご覧ください。

この表は、計画の対象となる市内の全学校に、給

食センターを加えたもので、棟数は、全部で 47 棟になります。

表の上部の黄色い欄の「建物基本情報」の一番右に、「築年数」の記載がありますが、例えば、建築から 40 年以上経過した、高田小学校、桂陽小学校、香々地中学校をご覧くださいと分かるように、屋根や外壁に最低の「D 判定」が出ています。

なお、昭和 56 年以前の旧耐震基準の建物につきましては、既に耐震補強が完了しておりますが、大規模改修については地域差はあるものの、近年は行われてはならず、局部的な補修に留まっている状況です。

オレンジ色の欄の「劣化状況評価」を見ていただくと、屋根・屋上の状況については、数回にわたり防水補修等を実施していることもあり、若干、高めの判定が出ておりますが、外壁については、建築時から全く手つかずのものが多く、早期の改修を要するとの結果が明らかになっております。

裏面は、その外壁部の劣化状況をまとめたものです。3 ページをご覧ください。

表の上 2 行をご覧くださいとお分かりいただけると思いますが、築 40 年以上では約 70%、30 年から 39 年では約 40%に「D 判定」が出ておまして、建築から 30 年経過というのが、一つの節目と言えると思います。

写真にありますように、コンクリートの劣化による外壁の亀裂であるとか、軒天のモルタルの剥離や、鉄筋のばく露が顕著になってきているのがお分かりいただけると思います。

まずは、これらへの早急な対策が求められる訳ですけれども、劣化診断に基づいて、改修の優先順位をまとめたものが、次の 4 ページになります。

横軸が「建物の健全度」、縦軸が「施設の重要度」になります。

例えば、重要度の高い建物である「校舎」であって、その健全度が低いというもの、表では薄い赤色（ピンク色）に塗られた部分になりますが、そこが一番、改修する優先度が高いということになります。

直近 5 年間では、赤線で囲まれた部分になりますが、現時点では、上段の赤塗りの部分（ピンク色の部分）、高田小、香々地中などを優先する必要があります。

平成 31 年度につきましては、まず、高田小学校の校舎の長寿命化に係る実施設計・改修工事に必要な経費を当初予算に計上させていただいております。議会の承認と国の交付金の内定をいただきましたら、順次、着手していきたいと考えているところでございます。

教育委員会といたしましては、本市の子ども達が安全で、安心して学習できる環境を継続していくためにも、欠かせない重点の事業と考えておりますが、今後、長寿命化改修には多大な財政支出も伴うことから、現状の把握、そして、今後の方針について共通認識を持っていただくため、ご提案したものでございます。

どうぞ、ご審議のほど、よろしく願いいたします。

○市長 佐々木 敏夫

はい。ただ今説明がありましたが、この件について、ご意見等いただければと思います。

教育長、考え方について皆さんにお伝えください。

○教育長 河野 潔

この問題につきましては、定例の教育委員会の中でも、学校訪問などでも、計画的に行っております。実際に現場を見ながら議論しております。

そういう中で、市の中でも最大限いろんなところで補強をしてもらっておりますけれども、なかなか思いがけないところに修理修繕がきております。そして、年間を通すとかなりの予算、予想外の出費が出ているところであります。

しかし、子ども達は年々学年が上がるわけでありまして、財政支出が伴うわけでありましてけれども、計画的に、この課題について解決してほしいと思っております。

○市長 佐々木 敏夫

大嶽委員さん、お願いします。

○委員 大嶽 由美子

はい。建物の安全については、昨年、大阪のブロック塀の悲しい事故がありましたけれども、この点については、早急に市内の調査を行ったということで安心しています。

幸いに、学校関係については危険がなかったということでもよかったと思っておりますが、ブロックや外壁については、学校からいろいろと意見が上がってきて

いると聞いておりますので、その点、市長さんも気になっていると思いますけど、色々な面で補助していただきたいなと思っています。

○市長 佐々木 敏夫

事務局、外壁について今までの状況と取組をわかる範囲で説明してください。

○教育総務課長 安藤 隆治

はい。2ページの資料で説明しましたけれども、築年数が40年を越えている、40年に近いものもかなりありまして、今までは、耐震工事を優先して行ってきているみたいですが、外壁については、補修工事は行っているんですが、今回、全体的に計画も作りましたので、ちゃんとした整備を行っていきたいと思っています。

○市長 佐々木 敏夫

よくテレビなんかで、外壁の剥離や看板等が落ちて、通行人が大きな被害をこうむるとか、特に、ブロック塀が倒れて死亡事故がということで、緊急的に取り組むということで、対応ができたのかという、そのブロック塀のところを詳しく…

○教育総務課長 安藤 隆治

具体的に申し上げますと、桂陽小学校のプールの部分とか、戴星学園の県道沿いに積んでいるものがありまして、そういったものについては、すぐに対応しまして、高さを調整するなり、撤去するなりで対応しています。

危険なものは、今のところない状況です。

○市長 佐々木 敏夫

はい、わかりました。他にありませんか。

まあ、災害のない安心して暮らせる環境、子どもですがすべて我々、社会で見守っていかねばならないと思っていますので、また、気づいた点がありましたらお願いします。

4. 意見交換

それでは、4番目の意見交換に移ります。自由に、あらゆる角度でご意見がありましたらお願いします。

○教育長 河野 潔

市長も一番気にされておりますが、働き方改革についてです。教育委員会部局、教職員が進んでいないのではないかという指摘が、市長をはじめいろいろなところからあるところであります。

私は、これは…、児童・生徒、地域と関わっているだけに、簡単に行かないところはあるけれども、今後の持続可能な教育を考えたときに、教育委員会部局が他の部局と離れては困るぞと思っています。

その点について、ぜひご意見をいただけたらと思っています。

○市長 佐々木 敏夫

私から発言させていただきますと、この問題は、本当は残業6時まで、それ以上は超えないようにという、働き方改革は実行できているのですが、教育委員会は子どもの授業に関わるものと、放課後の体育の担当を張り付けるじゃないですか…。サッカーや空手でも「お前たち8時までやれ」と「俺、先に帰るよ」なんか、こういうわけにいかない。

私は正直言って、市役所本庁でも、前は7時より前に帰れないという、「じゃ、自分の子どもと一緒に食事したことがありますか」というと「職員はひとり親家庭みたいな…、子どもと食事したことないよ」なんかいう、今までそれが当たり前…、県庁でもそうなんですよ。11時、12時ざらなんですよ。労働基準局に行けばサービス残業なんて一発で指導されるので、県庁がやればいいのか、公務員がやればいいのかと…。民間がやれば即レッドカードで、賃金を払いなさいとなります。

だから、それはともあれ、サービス残業…、子ども達と家庭らしい生活をできない状況がいいのかどうか…、これは全国的なんですけど、ひとつ提案を申し上げますと、アスリートでスポーツをやっている方々が、30歳を超えたらもう限界だよと…、第2の人生を成功する人はわずかなんですよ。こういう人たちを逆に、5時か6時から、子ども達のために2時間雇用して、いま一般企業も人手不足なので、民間に昼から出てきてください。5時まで仕事して、子ども達のスポーツに6時から2時間関わってくださいとかね…、その分は有償でという形ができると、教職員の方も…、どこかで例をつくらないと、国も、我々の社会も甘えてしまっているんですよ。

子ども中心に動かせて、学力・体力アップという目的で…、そこに関わる先生たちは健全な形で携われているのか…、だから我々豊後高田市では塾がない、じゃどうしようかと…、学びの21世紀塾や放

課後児童クラブを利用して学習支援をする、中学校になると学力アップ、これも含めて先生方の負担が…

だから理想を求めているがゆえに、この犠牲を見逃さない社会も必要なのかなとか、犠牲の上に成り立っていると、いつでも壊れるじゃないですか。

これもまた、皆さん方の意見を聞いて我々も少しぐらいの支援ができるなら、高田の全校にはいきなりできなくても、桂陽小・高田小ぐらいをそういう学習サポートじゃなくて、スポーツのサポーターを…

プロ野球の金田政彦選手などがいるときに、野球の指導をしてくれると違うんですよね。やっぱりプロが指導すると…。そういうアスリートなんかを…、指導者のうしろ姿を見てやる気になったりするじゃないですか。

○教育長 河野 潔

その辺については、部活動の外部指導者について、小川課長の方から説明させます。

○学校教育課長 小川 匡

現状を申し上げます。部活指導員ということで、高田中学校空手道部に1名雇用しております。週に、限られた時間なんですけど、単独で指導できるという体制になっております。年間200時間程度ですが、来年度は、他の部にもというふうに考えております。

その他にも専門性の高い部活動については、地域の方でボランティアという形で17名ほど、各中学校で支援をしていただいています。

部活動の活動時間については、平日5日以内、土日いずれか休養日ということで、そういう上限を設けて働き方改革の一環として、実施しております。

○市長 佐々木 敏夫

いま、地域の協力でということ、みんなボランティアですか。

○学校教育課長 小川 匡

有償のボランティアも、無償のボランティアもあります。

○市長 佐々木 敏夫

私が行政側なので、完全なボランティアを募集する場合と給料まで出せなくても、多少のお礼ができて、やってくれる人のやりがいとか…、スポーツやる人は結構情熱が多いじゃないですか。だから、全

国大会に絶対にこの子ども達を連れて行くんやとか…、だから、オールボランティアじゃなくして財政的に、佐藤総務課長や安藤教育総務課長もいるので…、やっぱりいいことに取り組む、その段階で犠牲はつきもので、だから学校の先生たちを学力アップで頑張ってもらって、その後のスポーツも面倒見てくれるというのは、今の時代にあってないと思うので…

○教育長 河野 潔

そういう形で部活動も徐々に拡大していきたいと思っています。

学力面では、教職員定数にプラスして20何名の教職員加配をいただいております。県の方もいろんな形で考えてくれております。

○市長 佐々木 敏夫

子どもは放っておいても育つというもんじゃないしね、いま社会が共稼ぎの時代なんで、これは、早く家に帰ったって誰もいないとかね、だから放課後児童クラブなんかをね、私は、いいタイミングに学習支援ができたなど。前は、小学校4年から6年生だったもの1年から6年生まで学習支援ができるように…。

昔と違って完全に共稼ぎの時代、今日オープンになった昭和の町の店舗で、ご主人が板前で奥さんが配膳したりだとか、夫婦で、だから家庭でも共稼ぎ、商売やっても夫婦でやっているという現代社会。取り組む以上、みんなと力を合わせて…

教育長の話があったので…

高井委員さんから、そのほかについてお願いします。

○委員 高井 郁郎

(大分県学力定着状況調査の)語彙の知識・理解が低いということは単語の理解ということですか…

○学校教育課長 小川 匡

そうです。英単語が十分理解できていないということです。どちらかというと今、コミュニケーション能力を高めていこうということで、「話す」方に力点がいつてるのかなと思います。基礎基本はしっかり教えて、その上に立って話す…

○委員 高井 郁郎

語形・語法の知識・理解は良かったですね。その別に語彙ですか…、習得している単語の数が少ない

ということですか。

○学校教育課長 小川 匡

そうですね。カッコの中に入れる語彙が思い浮かばないといえいいのでしょうか…

○委員 高井 郁郎

ありがとうございました。

○委員 宮崎 みゆき

長寿命化のお話がありましたけれども、私は、やはり建て替えをお願いしたいと思っています。

○市長 佐々木 敏夫

はい…。松成委員さんどうぞ。

○委員 松成 康男

はい、私の方からは耐震化のところの評価ですが、専門家の方が評価さたんでしょうか。

○教育総務課長 安藤 隆治

そうです。

○委員 松成 康男

この前、学校訪問した時に、僕ら実際に現場を見て専門的などころは全くわからないのですが、やっぱりここは危ないんじゃないかとか、ここは傷んでいるなとかわかるところがあるんですけども、そういったところの優先度がどうなのかなと…

実際に子ども達が危ないとなったときに、すぐに補修できる体制になっているのかなと思っているんですけど…

○教育総務課長 安藤 隆治

学校などからそういった話があった場合は、危険なものについては、それは優先的にやります。長寿命化の優先はあくまでそれはそれで、危ないところがあれば優先的に対応していきます。

○教育総務課課長補佐兼総務管財係長 馬場 政年

老朽化が進んでいるところについては、そのまま放置しているわけではありません。これから長寿命化を図ると言いますが、例えば雨漏りしているとかありましたら学習環境に影響が出てきますので、そういうところは緊急で、業者さんの方に対応してもらっています。

学校の現場サイドで、校長、教頭、担任の先生を含めまして、施設内の点検を定期的にやってもらっています。特に危険な個所についてはその都度要望が上がってきますので、速やかに対応しているところではあります。

ですから、今後はそういう部分も含めてですけど、部分的な補修部分と長い目で見たときの改修は切り離して考えています。ですから、緊急時の対応に関しましては今まで通り対応してまいりますし、今後、老朽判定に基づいて長期的に見て改修を施す部分については、予算面から、小学校から計画的にやっというところと教育委員会では考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願ひします。

○市長 佐々木 敏夫

それと今、トイレについては古いトイレはあるの、ないの。

○教育総務課課長補佐兼総務管財係長 馬場 政年

昨年のこの会議の議題として取り上げさせていただきましたけれども、学校全体としては半分以上が古い便器の状況です。全国的な流れとしては、改修の際には、洋式化をしていくと、それは何かといいますと、災害などが起こった際に問題になるのはトイレの問題が一番大きいと聞いております。

幸い、市内の一番大きな高田小学校、桂陽小学校については、耐震補強する際にトイレの改修は実施しておりますので、洋便器に改修されております。それ以外、高田中学校については一部に洋式で、ほとんどは和便器の状況です。今後、この長寿命化も大切ですが、このような改修と合わせてトイレの改修も現状のライフスタイルに合わせた格好で改修していきたいと考えております。

現状では、学校間で差はありますが、全体的には40%程度が洋式に代わっている状況です。

○市長 佐々木 敏夫

大分県では、それに組み込むという状況であったようですが、予算を取りに行くときに制限があるんですね…

空港など、女子トイレは列ができているのをよく見かけます。学校ではそのような問題はありますか。

○教育総務課課長補佐兼総務管財係長 馬場 政年

学校のトイレは、児童・生徒数に応じて設置しておりますので、基準がありますので、それに合わせて配置しています。各階、各棟にありますので、その点は回避できていると思います。

○市長 佐々木 敏夫

絶えず、チェックはしておいてください。健康問

題等もありますので…

それでは、大嶽委員さんどうぞ。

○委員 大嶽 由美子

はい。ちょっと話を戻して、教職員の働き方改革に関係するのですが、現場の声を聞く中で、学習面や現場のサポートとあわせて、時間をとっているのが生徒指導とか、保護者への対応とか、そのへんがあると聞いています。

市長さんも把握されていると思いますが、子どもへの（千葉県野田市の）虐待問題は、聞いたときに胸が痛くなりました。学校の対応も話題になっておりまして、いじめとか不登校とかと合わせて、心を病んでいる子ども達、親から十分な愛情をもらっていない子どもとかの対応とか、これから求められるものがものすごく多いと感じていて、それがどうしても学校にくるといふか、学校の方で何とかしてほしいというような、保護者からの要望というか、保護者の手に負えない部分を学校が担わなきゃいけない部分が多いんだなと感じています。

この前も話題になったときには、学校だけで担えない部分は、いわゆるソーシャルワーカー、児童相談所の専門員が市にサポートに入ってくれているということなので、そういう力を借りて、学校だけではできないことを何とか一緒に解決していくということが、先生たちの負担軽減につながるがありますし、本当の解決につながるころだと思えます。

ぜひ、そういう面での市のサポートもいただけたらいいなと感じています。

よろしくをお願いします。

○市長 佐々木 敏夫

その一部として、学校給食で昨年からは無償にした理由として、学校の先生が話したことではないのに「あの子は給食費を収めてない」とか、これ（子ども達）わかっているんですよ。義務教育でありながら、学校で無言の圧力…、陰から人の食事をそっと見て…、こんな思いをさせたくないで、学校では平等に学べる、同じものを食べられる…、テレビを見ていて、家ではジュースは与えられるけど食べ物はない、唯一の栄養源が給食だと…、このような差別をなくすのは、給食の無償化しかないなと思って、踏み切ったところです。

家庭で食べられなくても、せめて学校では食べられるとかね、だから義務教育ですからね、本当はすべてをみてあげても…

国は大学をどうするこうすると言っていますけど、義務教育はすべてタダにしてもおかしくないと思うんですがね…

だから豊後高田市では、食事だけはいくらか環境がよくなったのかな。冷暖房はすべて完備して、待機児童はなしとか、放課後児童クラブの学習サポートとか、中学校の学力アップサポートとか、すべて取り組んでいただいているので、段々要求が高くなると、学校の先生に負担がどんどんいくのかという心配もあるので、先ほど小川課長が言ったように、スポーツの専門家やボランティアで応援してくれる人が…

小さな自治体の取組が国全体を動かすこともあります。スポーツをしていて30代で引退して後の生活といたら…

いま、中核工業団地は3交代でやっている。では民間企業は、昼から夕方まで働いて、5時から体育指導で…

やっぱり地域全体が見守り、虐待防止…、SOSは出るんですよ。豊後高田市はないと信じていますが、あんな虐待があるなんか…、みんなが見守っていいまちにしましょう。

○教育長 河野 潔

千葉県野田市の事件の後、会議を持ったんですけど、中津児童相談所の所長さんがみえられた会議で…、豊後高田市の場合はスクールソーシャルワーカーを3名配置していろいろな事案に対応している状況です。

○学校教育課長 小川 匡

家庭的に厳しいお子さんについては、学校だけではなくて福祉などの関係機関との情報交換を月に1回必ずするようにしています。

福祉の方からは家庭の状況を提供していただき、学校での状況は、情報として提供させていただいています。その子がいい方向に行くようにですね、そういう会議を持ちながら、また各学校ではケース会議を持っておりまして、どの機関がどういうアプローチをしていくかということも連携が取れておりますので、今のところ重大な事案は起こって

おりません。

○市長 佐々木 敏夫

教育委員会も、警察も、保健所も、児童相談所も全部連携はとれているんですよ。テレビとか見ると、それを使いこなしていないんですよ。

私も結構、視察などでそういう現場を見させていただいています。ただ、その現場だけで抱え込んでいて…、ひとりで抱え込まないというのは絶対に必要なことです。

他にありませんか。

(「なし」の声あり。)

しっかり連携して取り組むということで、子ども達を伸ばしてあげて、守っていくものは守っていくということで、よろしくをお願いします。

それでは、進行を事務局に戻します。

○市総務課長 佐藤 之則

それでは以上を持ちまして、平成 30 年度第 1 回豊後高田市総合教育会議を終了したいと思います。たいへんお疲れさまでございました。

(14 : 25 終了)